九州の新・成長戦略２０１４

九州は日本の出島になる―。政府の日本再興戦略を受けて設けられた九州・沖縄地方産業競争力協議会は、4月に成長産業戦略「九州・沖縄Earth戦略」をまとめた。そこでは古くから海外交易が盛んな九州が「まさに日本の出島（特区）、アジアのゲートウェイとなり（中略）日本再興戦略を先導する」と掲げた。戦略分野では、地域の強みを生かせる「クリーン」「医療・ヘルスケア・コスメ」「農林水産業・食品」「観光」の4分野が柱。那覇空港の国際物流ハブ拠点の活用など、沖縄との連携もカギだ。

大都市圏で聞かれていた安倍晋三政権の経済政策「アベノミクス」による景気回復は、九州ではこれまで実感の乏しさが否めなかった。しかし最近になり「ようやく好況の波が九州に届いてきた」（佐賀の中小企業経営者）といった声が聞かれ始めた。

ただ、基幹産業は明暗が分かれている。2013年度の4輪自動車生産台数は前年比3・4％減の約137万台。5年ぶりに減少したものの、前年に次ぎ過去2番目の高い水準を維持した。一方で集積回路（IC）生産は数量・金額ともに3年連続のマイナスだった。

造船業では長崎県佐世保市に造船所を構える佐世保重工業が、近隣の佐賀県伊万里市に造船所を持つ名村造船所の傘下に入ることとなった。海外勢との競争は厳しいが、環境や海洋産業などに強みを生かすための競争力強化として地域の期待は強い。

景気の復調感が強まっている一方、4月の消費増税の影響も出ている。中小企業家同友会全国協議会九州・沖縄ブロックが6月にまとめたアンケート（回答企業642社）では、約3割が駆け込み需要の反動減、3割以上が仕入れ金額の上昇を挙げた。また企業からは、電力料金引き上げによる経営コストの上昇による悲鳴も聞こえてくる。原子力発電所の早期再稼働を求める声も強い。

ただその半面で成長戦略で掲げられたように、再生可能エネルギー分野は九州が強みを生かせる領域だ。九州経済産業局は「クリーン九州プロジェクト」を6月に策定。水素や太陽光、地熱、小水力、洋上を含めた風力など多様な発電分野の潜在性と将来性を挙げた。同分野ではこれまでも各地で研究開発活動やインフラ整備、産業活動が進められてきた。さらに今後それらの活動が進展するとともに、地域を越えた相乗効果に期待が集まる。

九州は一つの「島」としての一体性の強さと、各地域の多様性が魅力であり強みだ。人口減で内需が頭打ちとなり、経済成長に外需の取り込みが不可欠な現状で、アジアに近く交流の歴史も深い九州は優位性が高い。各地で企業規模や産学官の垣根を越え、また国境も越えて市場を見据える産業振興の取り組みが盛んに行われている。この特集ではその活発な動きの一端を紹介する。

インドと経済交流

九州経済連合会は6月、インド商工会議所連合会（FICCI）と経済交流に関する覚書を交わした。FICCIは会員企業数8万3000社以上、同国最大で最も古い商工団体。有望市場であるインドとの関係強化を図る。（九経連提供）

高炉を再稼働

新日鉄住金八幡製鉄所（北九州市戸畑区）は4月、1998年の稼働以来16年ぶりに改修を進めていた戸畑第4高炉を再稼働した。容積を従来から拡大し、「競争力ある高炉」（同社）として世界と戦う。（写真は改修中の様子、新日鉄住金提供）

新型試験車両

鉄道建設・運輸施設整備支援機構とJR九州による、フリーゲージトレインの新型試験車両の走行試験が4月に熊本県内で始まった。異なるレール幅を走行可能で、2022年度までに予定する九州新幹線長崎ルートでの営業走行に向けて検証を行っている。

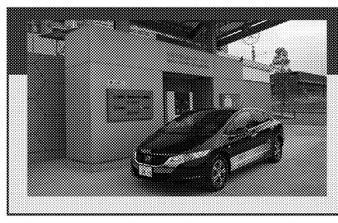
大型クルーズ客船進水

三菱重工業は5月、長崎造船所（長崎市）で建造中の大型クルーズ客船を進水した。船底から吹き出す泡で燃費改善する環境技術など、最新鋭の技術を搭載する。2015年3月の引き渡しに向けた工事が進む。（三菱重工提供）

福岡水素戦略（Hy-Life プロジェクト）

福岡県は、水素エネルギービジネス拠点の構築を目指し、燃料電池自動車（FCV）の普及と水素ステーションの一体的整備をはじめ、水素エネルギーの実用化・産業化に取り組んでいます。

いよいよ2014年度中にFCV販売開始！FCV普及と水素ステーション整備を一体的に推進！



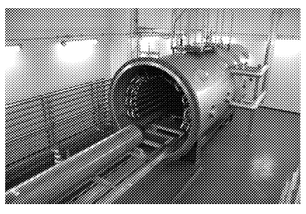
FCVの普及促進

○地元経済界、大学と県内自治体が一体となって「ふくおかFCVクラブ」を設立
○タクシーへのFCV導入を助成

水素ステーションの整備促進

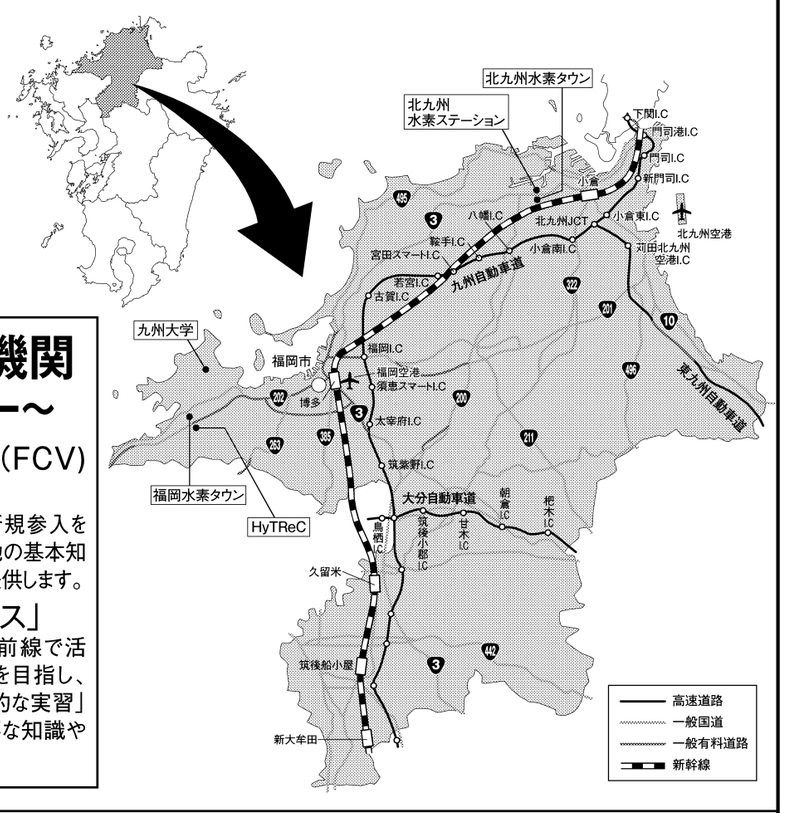
○候補地の情報提供
○共同出店できる地元企業とのマッチング
○地元企業との共同運営ステーション整備を助成

世界屈指の試験機関　～水素エネルギー製品研究試験センター（HyTReC）～



水素関連製品の性能や信頼性の評価により、企業の製品開発や水素エネルギー産業への参入を支援しています

平成26年4月には、世界最大・最高性能の設備を備えた大型水素容器試験施設「CRADLE棟」の運用を開始しました。水素ガス環境下で使用する「バルブ」や「センサー」、「ホース」等に加え、燃料電池自動車用や水素ステーション用の中・大型の水素貯蔵容器まで、あらゆる水素関連製品の耐久性試験や評価が可能な世界屈指の試験機関です。



九州大学を核とした世界最先端の研究開発

水素の製造、輸送・貯蔵から利用まで一貫した研究開発を推進しています

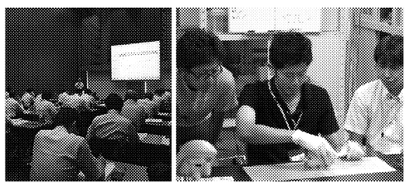
「次世代燃料電池産学連携研究センター」
企業と緊密に連携し、発電効率や耐久性の高い次世代型燃料電池の開発・早期実用化に取り組む国内初の集中研究所です。

「カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所」
世界 11 か国、24 の大学・研究機関と連携し、水素利用や CO_2 の回収・貯留による低炭素社会の実現を目指して、新たな科学を創出します。

「水素材料先端科学研究センター」
国内トップレベルの研究者を結集し、水素材料の基本原理を解明し、安全性と経済性を両立した製品開発に貢献します。

全国唯一の水素関連人材育成機関　～水素エネルギー人材育成センター～

水素・燃料電池関連産業の実用化・産業化を支える人材を集中的に育成しています



「経営者/経営者（FCV）コース」
水素関連分野への新規参入を促すため、水素・燃料電池の基本知識と最新の市場動向を提供します。

「技術者育成コース」
水素関連企業の最前線で活躍する技術者の育成を目指し、「幅広い講義」と「実践的な実習」を通して、技術者に必要な知識や経験を提供します。

福岡水素エネルギー戦略会議
〒812-8577 福岡市博多区東公園7-7（福岡県商工部新産業振興課内）
TEL:092-643-3448　福岡水素エネルギー　検索
福岡県